

## 2025年度ブルーカーボン量（ベースライン）

### 引本浦 春藻場

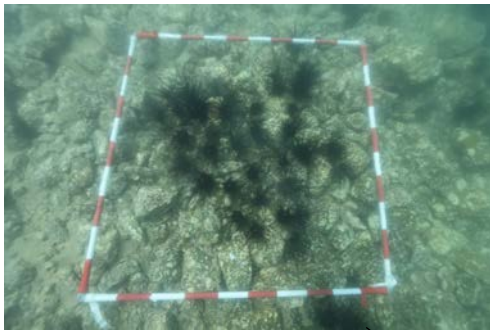
#### 根拠 1（Before-Afterの比較）

三重県北牟婁郡紀北町引本浦地区のうち、水深10m以浅、岩礁が基質の箇所を活動区域として選定。

活動前に地元漁業者による聞き取り及び活動前のモニタリングにおいて対象活動区域での海藻類の繁茂が確認されていない区域を活動区域として選定。  
→ベースライン0とする。

ダイコン島、弁天島：2022年よりプロジェクト開始。

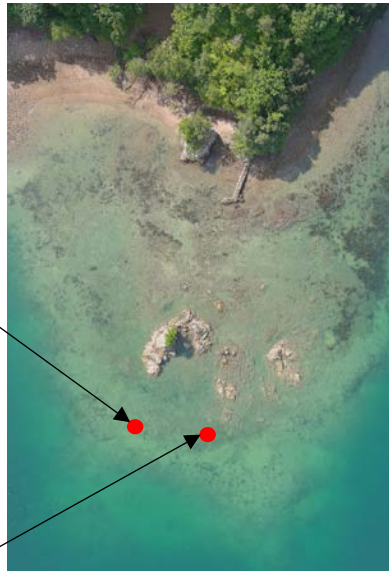
プロジェクトを実施している区域の活動開始時の状況  
ダイコン島



2022/6/27  
ダイコン島  
海藻被度 0 %

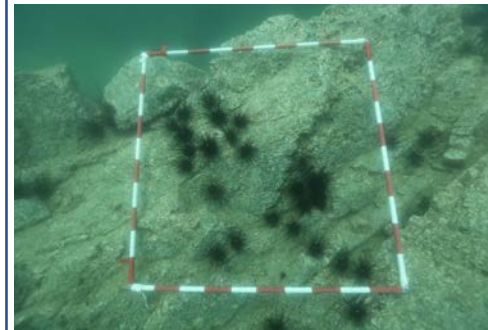


2022/6/27  
ダイコン島  
海藻被度 0 %



● モニタリングポイント

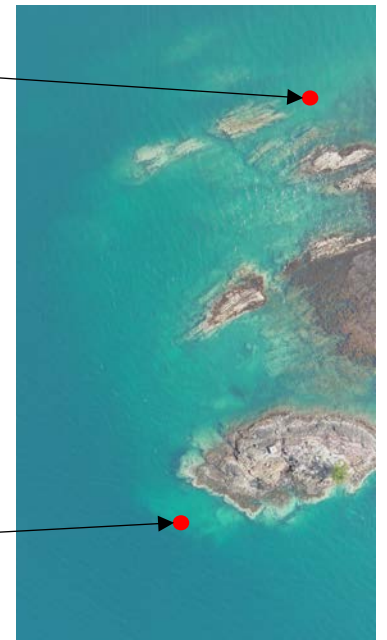
プロジェクトを実施している区域の活動開始時の状況  
弁天島



2022/6/27  
弁天島  
海藻被度 0 %



2022/6/27  
弁天島  
海藻被度 0 %



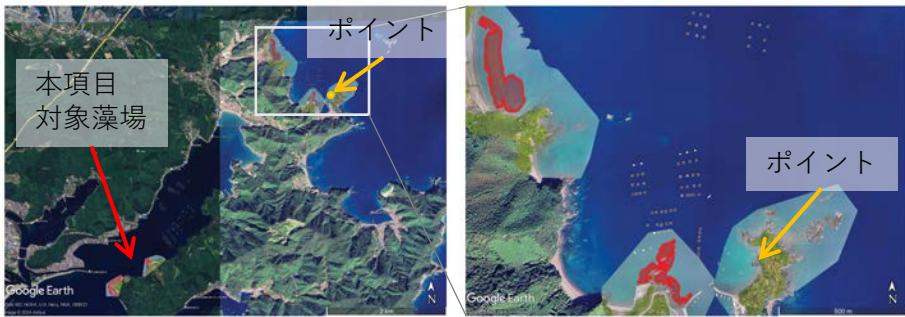
● モニタリングポイント

2025年度ブルーカーボン量（ベースライン）

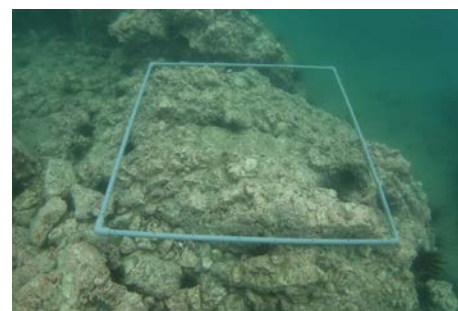
根拠 2（Control-Impactの比較）

本プロジェクトの活動開始から現在までの期間において、本項目と同様の熊野灘地域の一部のポイントにおいて、一時ウニ類駆除活動により海藻類が繁茂したが、その後当該ポイントで駆除活動を行わない期間を設けところ、再び海藻類が無くなった。

根拠1, 2よりプロジェクトの活動により藻場が維持・回復していると推測され、プロジェクトを実施しない場合、藻場が消失すると考えられることから、ベースライン 0 とする。



プロジェクトを実施ししないと磯焼けに戻る状況  
撮影場所はすべて同じポイント（右上図中のポイントに該当）における経年変化



2016/5  
海藻被度  
0%



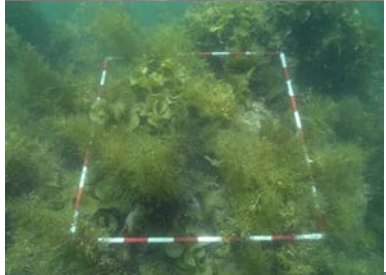
2017/5  
海藻被度  
20%



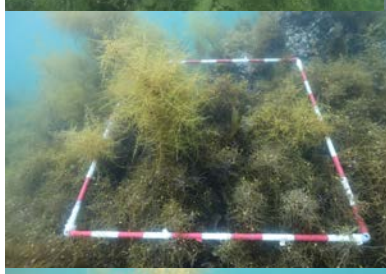
2018/5  
海藻被度  
65%



2019/5  
海藻被度  
50%



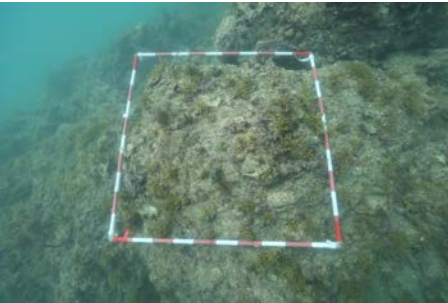
2020/5  
海藻被度  
95%



2021/5  
海藻被度  
85%



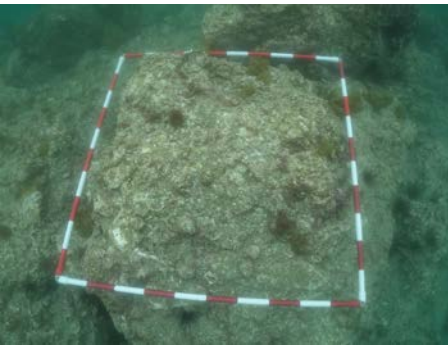
2022/5  
海藻被度  
70%



2023/5  
海藻被度  
35%



2024/5  
海藻被度  
5%



2025/5  
海藻被度  
5%

※主な確認種はオバクサで、吸収量算定の対象としていないものである。